

「第16回因州和紙あかり展」入賞作品選考審査結果

日時 令和2年1月8日（水）

午前10時～正午

場所 鳥取市あおや和紙工房

審査員長 石谷 孝二 氏（鳥取大学名誉教授）
審査員 山ノ内芳彦 氏（木工・灯り作家）
審査員 遠藤由美子 氏（公立鳥取環境大学副学長）

■総 評

一般部門には県内外より40点の力作が集まった。大賞はアイデア、完成度とも高く、和紙の魅力が伝わる作品と評価された。

準大賞・佳作ともそれぞれ力作が選定されたが、今回は特に新しい試みにチャレンジする作品に高得点が付いた。

受賞以外の作品にも甲乙付け難い作品があったが、より新鮮さを感じる作品が賞に選定された。

和紙の素材を生かしながら新たなあかりの発信となる創意ある意欲作を期待したい。

ジュニア部門は今回5点のみの応募であった。協議の結果、今回は全作品入賞とした。

■一般部門 講評



大 賞 【紙片連】

安井 小百合（岐阜県多治見市）

緻密で丁寧な作品である。円筒を横に設置することで空間に浮いているように見える。紙の連なりはシンプルな連なりだが巧みな構造で複雑に作用している。光の白さと紙の白さが調和しており和紙の魅力が生きている。

大賞にふさわしい風格を有している。



準大賞 [回]

藤原 正和 (京都府京都市)

あかりの灯で回る円盤というアイデアが斬新である。既製品の使用について指摘があったが、従来の作品にはない新しい可能性を広げる点に評価が集まった。壁や天井に光が映り、空間を取り込んだ光の演出が成功している。



佳作 [Biotop]

國吉 友紀子 (東京都江戸川区)

三重の入れ子構造のそれぞれの層の色・形のバランスが良く、透かしながら構造を奥まで見せることができている。中の電球をうまくワイヤーで処理しており、独立したオブジェとしての魅力がある。



佳作 [エンムスピ]

田淵 萬坊 (東京都板橋区)

軸に対して結びが羽のように出ており、一枚一枚に当たる光がランダムで面白い。電球と和紙のシンプルな結びつきでできるというアイデアが面白く、オリジナリティがある。やや単調で物足りない感じもあるが、使われている電源の長さ、太さや和紙の選定。あるいは設置の演出など可能性が広がる作品である。

■あおや和紙工房賞（鳥取県内の応募作品対象）



入賞 [inori]

竹歳 真帆／魔法リズム（鳥取県倉吉市）

丹念に作り込まれた作品で、素材としての和紙を上手に工夫している。単体としての作品というより、あかりをおぼろげに放つ全体的空間としての雰囲気にも独特の世界があり、引き込まれる点が評価された。



入賞 [光跡]

米子高専 西川研究室（鳥取県米子市）

和紙のラインの繊細で柔らかいカットが素晴らしい。流線の太さ、強弱にも変化がつけられておりデザイン的にも秀逸。今後期待を持てる作品として注目した。